

## 第19回 (R1. 7)

### 茅の輪くぐり

庭の片隅で桔梗が咲きました。鮮やかな紫色の花が、鉛色の風景の中で凜とした姿を見せています。気が付けば季節はもう夏。今年も既に半分が過ぎようとしています。

1年の折り返しにあたり、日本には独特の神事があります。「夏越の大祓い」<sup>なごし</sup>「水無月大祓い」と呼ばれるもので、過ぎた半年の災いを祓い、無事感謝するとともに、残る半年の無病息災を祈るものです。参拝した人々は「茅の輪」をくぐることで、心身を清め、残る半年を清々しい気持ちで過ごせるよう、お祈りするのです。

6月末から7月初めにかけて全国の神社に、この茅の輪が設置されます。氏子の方々が真菰<sup>まこも</sup>や葦を刈り取って、直径2メートル余りの輪に編み上

げます。最近では原材料の入手が困難になり、どこの神社も苦労していますが、西川津の総鎮守である市成の熊野神社が、この伝統神事を継承しています。

この茅の輪くぐり、単に無事を祈るだけではなく、後半に向けて新たなパワーの獲得という意味もありそうです。あるいはヨミガエリ（再生）の思想が流れているのかもしれない。そう考えれば、伝統風習でありながら、現代に通じる奥深いものを感じます。今年も熊野神社では6月29日夕刻から1週間程、茅の輪が設置されます。スピリチュアルな茅の輪くぐり、一度体験してみたいかがでしょう。できれば茅の輪が瑞々しさを失わないうちに。